

上部は藪だが下部は快適

## 乗鞍北面 アカンダナ山西面、安房山シュート

中村

【日時】2011年2月11日(金)～13日(日)

【メンバー】中村(L)、木下、坂村、大平

1月三連休に安房平定着を行い、周辺にはまだ滑れそうな場所がありそうだと、再びこの山域を計画した。連休中は天気がそれほど良くなく、特に標高の高い金山岩北面には、今回も行けなかったものの、アカンダナ山西面はアプローチの良さも含め、快適なルートであった。今回は雪の状態が悪かったので止めたが、いつかは「アカンダナシュート滑走」にチャレンジしたい。

【1日目】2月11日(金)：平湯～アカンダナ山～西面滑走～平湯 [曇り/雪]

初日は、金山岩に行く予定であったが、標高の高い場所は霧が晴れない。標高2500m付近から複雑な尾根を、この霧の中滑走するのは難しいと思われたので、3日目に計画していた、アカンダナ山西面のルートに行くことにした。

入山口は、前回と同じ旧国道のゲート、前回同様、旧国道はショートカットして、あっという間に上部の旧国道に出る。前回1909Pに登った時に用いた南南東の沢型から山頂へアプローチする。そのままアカンダナ山の東の鞍部に出る手もあったが、滑走ルートの下見を兼ねて、1909Pと山頂との間の鞍部を経由し、そこから西面をぐるりとトラバースするルートを選択した。

このルート取りをすると全てのアカンダナシュート(全部で5本)を下から観察することができる。どのシュートも急傾斜で、中には岩が露出しているものもあったが、最も西側のそれは、比較的雪がしっかり付いている様子であった。

山頂の真西の1900m付近から山頂を目指す。登るにつれ、針葉樹がだんだんと密になり、行く手を阻む。傾斜がさらに急になり、スキーで登るのは困難となる。比較的傾斜がゆるそうな北面にさらに回り込み、ルートを探す。山頂は広い平坦地となっていた。

シュートを滑る選択肢もあるが、今日の雪は硬くクラストした上に新雪が積もつ



アカンダナ山山頂

た雪であり、急傾斜に入る気にはなれない。とりあえず、1900mまでは登ったトレースを、藪を掻き分け滑り下りることにした。



急ではあるが木が疎らな西面滑走ルート

地形図では、1900mから上  
が針葉樹マークなのに対して、  
下は広葉樹マークとなっている。  
1900mの台地から下を覗くと、  
林間が疎らな斜面が続いている。  
目論見通りの良い斜面だ！

クラストの上に新雪が乗っ  
かり、急な傾斜なため、滑る  
たびにスラフが発生する。雪  
が軽く 10Cm程度の深さなので、  
まともにスラフを受けても、  
流されたり埋もれたりするこ

とはないが、極力フォールラインから外れた場所で立ち止まるように心がける。

ルートとしては、地形図で 1500m前後に堰堤を持つ深い沢型の 1 本南の非常に薄い沢型を滑ったことになる。この沢型は下の方に行くと尾根に導かれ、隣の深い沢型の脇に出る。深い沢型には入らないように、進路を少し左にとると、再び薄い沢型に出る。それを滑り下りれば、旧国道に出合う。この場所は崖の切れ目で、簡単に林道に下りられた。

旧国道は九十九折になっているので、左寄りにショートカットして斜面を下り、しばらく旧国道を歩くとゲートが見えてくる。

## 【2日目】

2月12日(土)：平湯～2165P経由～安房山～安房山シュート滑走～平湯 [雪／曇]

2日目は、今回の山行のメインイベント、1月の三連休の時に登った 2165Pを経由し、安房山、そして小船への快適シュートを滑り、周遊するロングルートである。

昨日と同様に旧国道をショートカットし安房平へ。この斜面を登る途中で、坂村さんは体調が悪いとのことで、テントに戻って休養となった。前回の安房平定着の際に水を取った川は、だいぶ雪に埋もれているが、水量は十分にある。国道が屈曲する場所から国道を離れ、沢沿いを少し入る。前回は雪が安定していたので、急な広い斜面を登ったが、今回は昨日の雪の感じから雪崩が心配なので、広い斜面を避け、その斜面の端にある尾根を登ることにした。木が生えているので、ルート取りが難しい。その上、南面を斜登しようとする、クラスト斜面の上に乗った雪とともに横ずれして非常に登りにくい。一方で日陰となった北面側は、クラスト面が硬くなく比較的登りやすかった。



尾根を抜け平らになったところで小休止。この先は、先頭を大平君に任せる。さすが 20 代、歩くのが速い。しかし、ルート取りがまだ慣れていない様子。ルート取りにはセンスが必要。上手だと思ふ人のトレースの付け方を真似して、後続者も含め楽でかつ早く目的地に着くようなルートになるように、斜度やキックターンする場所を考えながら歩き、とにかく慣れてください。

天気があまり良くないので、2165Pの山頂はカットして安房山を目指す。一旦、2つのピーク間の鞍部に向け 50mほど高度を下げ、再び安房山に向けて登り返す。山頂手前は、雪庇が発達しており、稜線の上は凸凹して歩いて歩にくい。西側の樹林の間を縫って、斜登気味にピークを目指す。

私は、2度目の安房山。ここで 1 時前。安房山から下りた後も長い旧国道歩きが待っている。山頂をそのまま通過し、滑走開始ポイントまで移動。

さて楽しい滑走タイム。雪の状態が悪いので、シュートを滑るのを諦め、尾根を滑り下りようとしたが、尾根は尾根で雪庇の凸凹と樹林で、快適ではない。それを避けるためシュート側の斜面を数ターンしてみたが、北面のおかげか意外と雪は安定している。木下さんと協議して、結局シュートを滑ることになった。

このシュート上部は結構急である。昨日と同様、スラフが発生するので、スピードを上げ一気に滑ってしまうことと、横に逃げた場所で停止するように心がける。

登っているときから気になっていたが、全く同じルートでトレースがついていて、このシュートにもシュプールがついている。どうやら昨日、我々と全く同じルートで入山した人がいたようだ。

シュートも中盤になると広い斜面となる。この場所は幅 20mくらい上層の雪が流れ落ちていた。多分、昨日滑った人が起こした雪崩の跡であろう。スラフ雪崩だとは思いますが、規模が結構大きいので、ひょっとすると面発生雪崩かもしれない。再び雪崩が発生しないとも限らないので、雪が流れ落ちた斜面を滑り下りる。

シュートの後半からは、斜度がだんだん緩くなり、スラフも起きなくなる。思う存分パウダーを楽しむ。少々スピードを出しすぎたのか、腰が少し痛くなってきた。しかし滑りの面白さには勝てず、痛いのをこらえて滑り下りる。

ここで、後ろを滑る大平君が転倒。変な転び方をしてしまい、その近くにあった立ち木に板を引っ掛ける。その場では立ち上がったものの、その後滑るペースが遅くなる。「どうしたの？」と聞いてみると、どうやら脚を捻ったようだ。ゆっくりとなら何とか下りられそうとのことなので、痛いのを我慢して小船まで下りて来てもらう。いろいろとあったが、安房山シュートは、この一帯では 3 本の指には入りそうな程の秀逸な滑走ルートだった。

小船は初めて来た場所であるが、とても変わった場所で、噴火口の跡なのであるうか、大きな窪地となっている。名前のとは異なり「大船」の中に居るかのようである。ここから安房峠まで、小船を脱出するように登り返し、旧国道に出る。安房峠には、「茶屋の跡」、「送電線の鉄塔」、そして「安房トンネルの排気口」

が並んで立っている。時代の変化を感じさせてくれる場所だ。

あとは旧国道を平湯まで歩くのだが、これが意外と長かった。行きのトレースまで、若干の下り坂ではあるがラッセルをせねばならない。所々急な片斜面となって、林道が雪の斜面に覆われた場所もあり苦戦する。しかし、行きのトレースに乗っかれば、あとはジェットコースターよろしく、あっという間に安房平を通過。最後の国道ショートカットの斜面の滑走を楽しみ、ゲートに戻った。

### 【3日目】2月13日(日)：平湯スキー場〔雪→快晴〕

体調不良や怪我人が続出し、天気もあまり良くなさそうなので、最終日は平湯温泉スキー場でゲレンデ練習することにした。このゲレンデは、3つしかコースがないのだが、初級、中級、上級ときれいに三つに分かれており、中でも上級コースは35度を越える非圧雪斜面で、かなり良い練習になる。ご飯券500円とコーヒー券300円、さらに温泉500円がついて、半日券セットが2500円と超格安だった！最後は、いつものように「平湯の森」の温泉に入り、帰京する。

### 【地形図】焼岳、乗鞍岳

#### 【行程】

2/11：旧国道ゲート(8:15)～1909Pとの鞍部(10:34)～アカンダナ山(1:05/23)～旧国道ゲート(3:25)

2/12：旧国道ゲート(7:19)～安房山滑走開始地点(12:54)～安房峠(1:50)～旧国道ゲート(4:33)

